

「刀装具から日本の宝飾品の歴史を紐解く」資料

刀剣を携帯するための外装を刀装と言います。また、その部品を刀装具、装剣具、刀剣小道具といい刀装具の代表的なものには、鐔・鐙（つば）、小柄（こづか）、筭（こうがい）、縁頭（ふちかしら）、目貫（めぬき）、三所物（みどころもの）などがあります。

- 1595（文禄4年）橋本庄三郎、金工師の後藤徳乗（宗家5代目）の名代として江戸に下向。
（庄三郎が京都の後藤家の職人として従事しているうちに徳乗に才覚を認められ、代理人に抜擢されたとされる。庄三郎は徳乗と家康に後藤庄三郎光次の名、五三桐紋の使用を許された。京都の後藤家は室町幕府以来の御用金の彫刻を家職としてきた。当時、判金といえば大判のことであったが、家康には貨幣としての流通を前提とした一両小判の鑄造の構想があった。「武蔵壹兩光次（花押）」と墨書され、桐紋極印の打たれた武蔵墨書小判が現存し、庄三郎が江戸に下向した当時に鑄造された関八州通用の領国貨幣であるとされている）

江戸時代

- 1600（慶長5年） 関ヶ原の戦い。徳川家康の覇権確立
- 1601（慶長6年） 家康、慶長大判、小判・一分金などを鑄造
（後藤庄三郎光次は江戸幕府初期の御金銀改役。家康に信任されて金座・銀座を支配した。江戸幕府の貨幣制度の基礎確立に功績があった。）
- 1603（慶長8年） 家康、征夷大將軍となり江戸幕府を開く
- 1615（元和元年） 大阪夏の陣、豊臣氏滅ぶ。徳川幕府、武家諸法度、公家諸法度などを制定
- 1661（寛文元年） 長崎・大村湾での真珠採取請願が長崎商人からあり大村藩これを許可
- 1665（明暦元年） 金座・銀座・両替商以外での金銀売買を禁止
- 1670（寛文10年） この頃、久慈（岩手）にはコハク細工師 20 余人【高山彦九朗『北行日記』】
- 1673（延宝元年） 三井高利、江戸に呉服店（越後屋呉服店）を開業
- 1694（元禄7年） ブラジルで金鉱が発見されゴールドラッシュ
- 1735（享保17年） 英、ガラード創業
- 1753（宝暦3年） 大英博物館創立
- 1773（安永2年） 木内石亭「雲根志」（前編）刊
- 1780（安永9年） 仏、ショーメ創業
- 1812（文化9年） 土佐沖（高知）で初めてサンゴ発見
- 1813（文化10年） 芝翫香（大阪）創業（びんつけ油）
- 1822（文政5年） 露、ウラル地方でプラチナ大鉱脈発見
- 1826（文政9年） 仏、モーブッサン創業
- 1814（文化11年） 伊能忠敬による「大日本沿海輿地全図」成る
- 1837（天保8年） 米、ティファニー創業
- 1838（天保9年） 蘭学者・医者として知られる緒方洪庵が「適塾」設立(大阪大学の前身)
- 1840（天保11年） アヘン戦争（1842年清を破って南京条約締結。イギリスへの香港の割譲）
- 1848（弘化5年） カリフォルニアで金鉱発見、ゴールドラッシュ
- 1851（寛永4年） からくり儀衛門こと田中久重、万年時計を作る
ロンドンで世界最初の万国博覧会開催される

- 1853 (寛永6年) アメリカ使節、浦賀に来る (1854年日米和親条約)
- 1855 (安政2年) パリ万国博覧会
- 1858 (安政5年) 日米修好通商条約
仏、ブシュロン創業
- 1860 (万延元年) 日米修好通商条約の批准書を交換するために、遣米使節がポーハタン号でアメリカに派遣され、その護衛の名目で咸臨丸も派遣された。咸臨丸には勝海舟が艦長として乗船、福澤諭吉も渡米した。しかし条約締結は日本に大きな政争を引き起こし、勅許の無いまま締結したことと同時期に問題となっていた將軍継嗣問題などが絡まり、直弼は派閥抗争鎮定のため反対派の幕臣や志士、朝廷の公家衆を大量に処罰 (安政の大獄)、条約関係者を排除した。結果、政局は不穏となり使節団のアメリカ訪問中に桜田門外の変が発生、直弼は暗殺され幕府の威信は低下した。
- 1867 (慶応3年) パリ万国博覧会。日本が初めて参加した国際博覧会であり、江戸幕府、薩摩藩、佐賀藩がそれぞれ出展した。幕府からは將軍徳川慶喜の弟で御三卿・清水家当主の徳川昭武、薩摩藩からは家老の岩下方平らが派遣された。薩摩藩は「日本薩摩琉球国太守政府」の名で幕府とは別に展示し、独自の勲章 (薩摩琉球国勲章) まで作りナポレオン3世に送る。幕府は薩摩藩に抗議したが聞き入れられず、幕末の政争が如実に現れた万博となった。この時、幕府もフランスで勲章外交を行うために独自の勲章制作を開始したが、結局幕府は倒れ、幻となった (葵勲章)。
南アフリカでダイヤモンド鉱山発見
大政奉還、王制復興

明治時代

- 1868 (慶応4年) 神仏分離令により廃物毀積運動が起こる
・明治元年) ご神体としての水晶玉が盛んに売られる
後藤庄三郎家の世襲制の家職、金座および銀座は明治新政府に接収される
太政官に設けられた貨幣司の下、大阪造幣局工事開始
- 1869 (明治2年) 金工師の加納夏雄、明治天皇の太刀飾り担当
大阪の造幣局で新貨幣の原型を彫刻
(明治新政府の「新貨条令」1871 (明治4年) 5月公布による新貨幣製作にあたり、その意匠・試鑄・極印の製造を命ぜられる)
藩籍奉還
- 1870 (明治3年) 甲府の水晶鉱山、開発熱高まる
華族が歯を染め、眉を剃ることを禁止
- 1871 (明治4年) 散髪、脱刀令の勅諭
大蔵省「造幣寮」として大阪造幣局創業
廃藩置県。新貨条例交付、円・銭・厘の新貨幣発足
- 1872 (明治5年) 太陽暦の採用により懐中時計の必要性高まる。
西洋式の大礼服、平常服の服制定められる。
新橋・横浜間鉄道開通。やぶ内時計舗 (大阪) 創業

- 1873 (明治 6 年) ウィーン万国博覧会に装飾品を出展
- 1874 (明治 7 年) **スイス、ピアジェ社創業**
- 1875 (明治 8 年) 勲一等旭日章 (勲章) が制定される
- 1876 (明治 9 年) 大礼服及び軍人、官吏制服以外の帯刀を禁止 (帯刀禁止令「廃刀令」) 公布
装身具づくりへ転じる金工師(刀装具職人) 増える
工部美術学校開校
- 1877 (明治 10 年) 第 1 回内国勲業博覧会に指輪が出品される
東京大学創設にあたり、和田維四郎は理学部地質学科にドイツ人教授ナウマン
とともに助教として勤め、金石学と地質学を担当する。
- 1878 (明治 11 年) **パリ万国博覧会でジャポニズム高まる**
- 1879 (明治 12 年) 「東京名工鑑」では 90 名の彫金師 (金属加工) が紹介されている
- 1880 (明治 13 年) **入れ墨の施行禁止**
- 1881 (明治 14 年) 服部金太郎、服部時計店を創業
金工師村松万三郎、第 2 回内国勲業博覧会に指輪等を出品。
- 1883 (明治 16 年) 鹿鳴館落成。当時の上流階級の人々にジュエリーを身に付けることが広がる。
- 1884 (明治 17 年) 「華族令」発布。公爵、侯爵、伯爵、子爵、男爵といった爵位が定められ、
有爵者の大礼服制が制定される (509 名の有爵者が生まれた)
植田商店 (現・ウエダジュエラー) 創業。
伊、ブルガリ創業
- 1885 (明治 18 年) 両替商、江島屋田中商店 (現・田中貴金属工業) 創業
西、カレライカレラ創業
- 1886 (明治 19 年) **米、ティファニー、ティファニー・セッティングを発表**
- 1888 (明治 21 年) **セルシ・ローズ、南アフリカにデ・ビアス・コンソリデード・
マインズ社創業**
- 1889 (明治 22 年) 東京美術学校開校。加納夏雄、彫金の初代教授に就任
和田維四郎「寶玉誌」発行。日本で最初の宝石専門紙
大日本憲法発布。パリ万国博覧会。エッフェル塔建造
- 1890 (明治 23 年) **教育勅度。帝室技芸員制度の設置。加納夏雄ら選出**
帝国ホテル開業。東京・上野公園で第 3 回内国勲業博覧会
- 1891 (明治 24 年) 金工師、村松万三郎、日本で初めてプラチナの溶解に成功
- 1892 (明治 25 年) 山崎亀吉、貴金属装身具卸開業 (清水商店に奉公後、店を引き継ぐ) 後に
山崎商店と改名。(現・GINZA TANAKA)
- 1893 (明治 26 年) 御木本幸吉、半円真珠の養殖に成功
- 1894 (明治 27 年) 優秀な卒業生に送る「恩賜の銀時計」、陸軍士官学校で始まる
- 1894~95 年 **日清戦争**
- 1895 (明治 28 年) **京都で第 4 回内国博覧会**
- 1896 (明治 29 年) パリのジュエラー、リュシアン・ガイヤール、日本から金工・七宝職人を招
ジュエリー制作
アテネで第 1 回オリンピック
- 1899 (明治 32 年) 御木本真珠店 (現・ミキモト) 開業
- 1900 (明治 33 年) 御木本真珠店、パリ万国博覧会に半円真珠を出展

仏パリ万国博覧会。アールヌーヴォーの最盛期

1902 (明治 35 年) 仏、ベルヌイ、合成ルビー開発

1903 (明治 36 年) 東京高等工業学校機会科の助教授小林豊造、貴金属業界視察のため、文部省より欧米に派遣される。(御木本真珠店貴金属工場長をへて、二度留学して、ベルギーでダイヤ加工研磨の技術を学び、日本の洋風装身具製作の先駆者となり、自ら 1917 (大正 6 年) 日本ダイヤモンド株式会社をおこした。また最初に蓄音機用ルビー針を作るなど、多くの技術を開発した。

大阪・天王寺公園で第 5 回内国勸業博覧会

1904~05 年

日露戦争

1905 (明治 38 年) 御木本幸吉、真円真珠の養殖に成功

山崎亀吉、日本の職人による貴金属装身具づくりを行う製造部門

「尚工舎」設立

1906 (明治 39 年) 仏、ヴァン クリーフ & アーペル創業

1907 (明治 40 年) これまで海外製であった帝国大学、陸・海軍大学の「恩賜の時計」に精工舎の 12 型懐中時計エキセレントを指定

1908 (明治 41 年) 英国宝石学協会設立 (英国ゴールド・スミス協会の教育委員会としてロンドンに設立された、世界で最も歴史ある宝石学・教育機関) 認定宝石学資格 FGA

1909 (明治 42 年) 農商務省、宝石の計量を「カラット」で行うことを 11 月 11 日に規定。

1910 (明治 43 年) 御木本真珠店、ロンドンに代理店

日韓併合。ロンドンで日英博覧会【久米武夫 (御木本幸吉の義弟) 出張】

1912 (明治 45 年) アメリカで催された宝石業界の大会で誕生石が制定される

・大正元年 (1952 年にアメリカ宝石小売商組合など複数の団体によって改訂される)

1914 (大正 3 年) 宝石学の先駆者久米武夫、コロンビア大学で寶石学を学び、著書「寶石」を発刊

1917 (大正 7 年) 山崎亀吉、尚工舎時計研究所創立(シチズン時計の前身)

1923 (大正 12 年) 岩田哲三郎、日本初の専門書「ダイヤモンド」発行。版元は山崎商店出版部

1924 (大正 13 年) 尚工舎時計研究所、懐中時計完成 (後藤新平により「シチズン」と命名される)

ダイヤモンドなどの奢侈品の輸入に対する「十割関税」が施工される

『金剛石』

金剛石もみがかずば

珠のひかりはそわざらん

人もまなびてのちにこそ

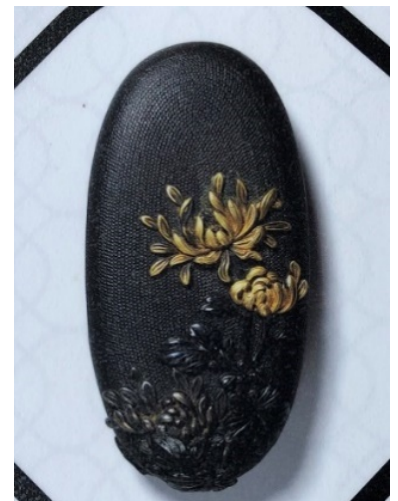
まことの徳はあらわるれ

時計のはりのたえまなく

めぐるがごとく時のまの

日かげおしみてはげみなば

いかなるわざかならざらん



1896 (明治 29 年) 昭憲皇太后